

印ステア

日本に積極投資

2軸押出機 食品、医薬を開拓

インドの2軸押出機大手メーカー、ステア・エンジニアリング（本社・

バンカロール）のグローバルCEOであるアタヌン・マイティ氏が先週、都

工業界にとどまらず、食品関連や医薬品関連の市



会見のマイティCEO

内で記者会見を行った。マイティCEOは、日本での事業展開を強化するため、日本人のステア・ジャパン（佐藤明彦代表取締役）を通じて、10年間で約25億円を日本で投資し「従来のプラスチック加

場を開拓する」と述べ、顧客の先端材料の開発を積極的にサポートすると強調した。

ステア・ジャパンは2005年の設立以来、過去10年間で約15億円を日本に投資し、2025社の顧客に製品・サービスを

提供してきた。主に化学業界の樹脂コンパウンダー向けに販売し、研究開発など先端分野で高い機能評価を得ている。

顧客サービスを充実させるため12年には「横浜テクニカルセンター」を設立し「最新技術とテスト機器を使い、顧客の問題解決に全力で取り組んできた」（マイティCEO）。また、今後10年間は変化する市場要求に

えるとともに「新規分野に打って出る」と話し、プラスチック・ポリマー業界にとどまらず食品、医薬品、健康補助食品業界などの顧客を開拓する方針。

実現に向け主流を占めるバッチ式による生産プロセスについて、同社の連続式2軸押出機の提案活動に乗り出す。日本の医薬品の生産プロセスは大半がバッチ式だが、インド、米国、中国では連続式の導入が相次いでいる。日本でもジェネリック医薬品（後発薬）の市場シェアが高まるなか、コスト削減に役立つ連続式を導入する機運が高まっている。

こうしたなか、横浜テクニカルセンターでは「当社のせん断制御、高トルク、高容積など先端テクノロジーで高度な顧客の要望に応える」（佐藤代表取締役）考え、新しい技術革新を進めることで高度化する市場ニーズに対応する方針。

The Chemical Daily, 2016/8/29, reports about STEER's investment for Japan, and development on food and pharmaceutical industry by twin extruder.